

未来に誇れる私たちの町を目指して

これまで小布施町では、先見の明を持ちながら小布施の地域性を活かし、自律的・協働的にまちづくりに取り組まれた町民の皆さんのお力により、長年にわたって力強いまちづくりを進めてくることができました。

一方で、町を取り巻く環境は目まぐるしく変動しております。昨秋からの台風災害や新型コロナウイルスの蔓延を受けての防災、環境、インフラ、危機管理等の整備・充実が喫緊の課題であり、財政、人口、公共施設、産業振興、教育、医療、福祉、保健など、どの分野においても直面する課題は山積しております。その中で、この総合計画における5年間は、その後の10年後、20年後の町の将来を決定する重要な期間だと考えております。

こうした状況下での「第六次小布施町総合計画」は、多様化・複雑化する地域課題に適切に対応しながら、将来にわたり持続可能なまちをつくり、次世代につないでいくために、小布施町にとって大切なこれからの5年間で何を目指し、そのために何をするかということを具体的にお示ししたものであります。

本計画では、多くの町民の皆さんからご意見をいただく中で、町の目指す将来像を「未来に誇れる私たちの町、小布施」としました。これは、先人たちや今の町民の皆さんが積み上げてこられた小布施の魅力や強みを次の世代に継承するとともに、今日生まれた子どもが大人になったときにも、町に対する愛着や誇りを持ちながら「やっぱりこの町はいいな」と思っていたけりような、新たな時代のまちづくりに取り組んでいくことを示すものです。

あわせて、将来像を実現するために大切にしたい価値観として、「つながりの力で協働する」、「多様性を認め、育む」、「都市と農村の良さを大切にする」、「新しい価値観や方法論を取り入れる」という4つの基本理念を定めました。この理念を皆で共有しながら、対話を重ね、協働し、お互いに支えあう町を目指して参ります。

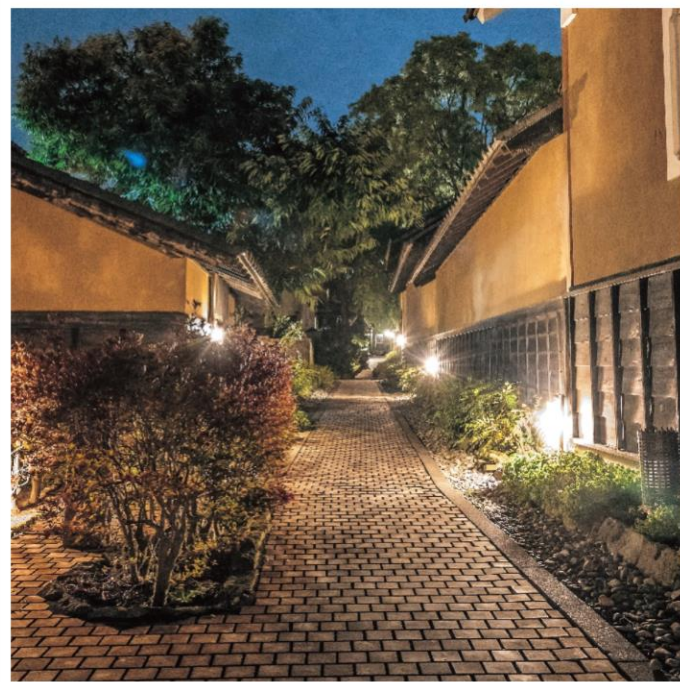
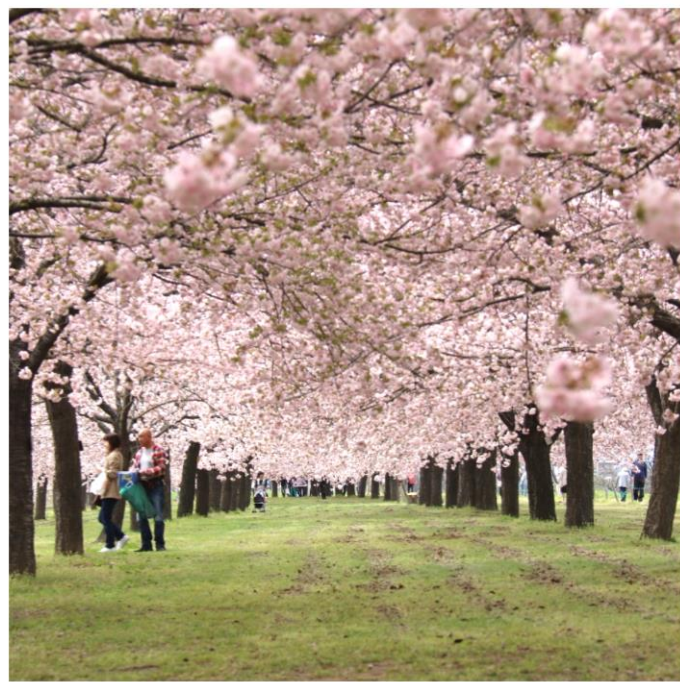
住み慣れた場所で住み続けられる地域を実現するためには、今まで以上に町民の皆さんのご協力が必要となりますが、私は、「町民力」が非常に高いこの小布施町では、それが可能であると確信しております。



小布施町長 市村 良三

まちづくりは、計画づくりのみで終わってしまってはなりません。実践・実行していく強い行動力が必要です。また、社会・経済の状況が日々激しく変化する現代にあっては、今後も計画の内容について町民の皆さんと十分にキャッチボールをしながら議論し、必要に応じて見直すなど、柔軟性を持った対応が必要と考えております。引き続き、町政にご助力を賜りますとともに、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたり、アンケートや専門部会、ワークショップの開催など様々な場面でご協力・ご意見をいただきました小布施町基本構想審議会委員の皆さん、町民の皆さん、本計画策定に関わってくださったすべての皆さんに心より感謝申し上げます。





町民憲章

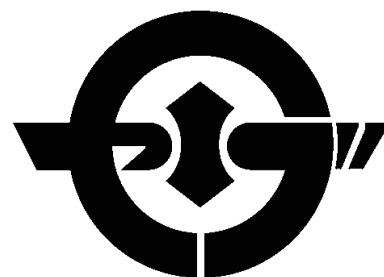
わたしたちは小布施町民としての誇りを持ち心から愛せる町をつくります。

- 健康で明るい家庭をつくりましょう
- 美しい自然を大切にしましょう
- 教養を高め、文化と伝統を育みましょう
- 特色と活力のある産業を育てましょう
- 親切をつくし、心と心をかよわせましょう



町章

小布施町の町章は「小ブセ」を図案化したもので、円は町民の皆さんの和を表し、一丸となってはばたき、躍進する小布施町を象徴しています。



町の木「栗」

室町時代の初期（貞治6年・1367年）に荻野常倫が旧領の丹波から栗の苗木を取り寄せ、松川の氾濫防止と荒地利用を図ったとも、弘法大師（774～835年）が当地を巡錫じゆんしゃくのうちに栗の親木を植えたともいわれる古い伝説に包まれた歴史を持つ小布施栗は、独特の風味を持ち、松川扇状地で生産されています。



町の花「りんご」

春一斉に花開く北信濃で、ひと際目立つのはりんごの花です。りんごの花が咲きほころぶ小布施町を雁田山から眺めると、かすみ草が群れ咲いているように見えます。淡いピンクの小さなつぼみが白く可憐な花に変わり町全体を包むその姿は、純粹素朴のなかにも品があり、町並みと調和のとれた様子は小布施町民を表しているようです。



町の概要

町の歩み

町の歴史は、約 1 万年前の旧石器時代、雁田山麓からとされています。縄文中期末頃には集落が形成され、稲作が行われるなど確かな生活の跡として残され、今日まで連綿と受け継がれています。

江戸時代後期に入り、千曲川の水運が盛んになるとともに、越後小千谷・十日町から飯山・中野を経て上州に至る大笹街道と、直江津・高田（上越市）から柏原・豊野を経て山田街道へと抜ける道は物産交易に大いに役立ち、安市に面影を残す六斎市は近郷の穀物相場の標準とされ、北信濃の経済・文化の中心として栄えていました。また、この賑いの中から生まれた豪農・豪商たちは、葛飾北斎や小林一茶ら多数の文人墨客を招き、文化の摂取に励み、今に続く文化の薫り高い雰囲気が形成されました。

明治 22 年 4 月には、市町村制の発足に伴い小布施村・福原村・山王島村・飯田村・北岡村・押羽村が合併して小布施村に、都住村・中松村・雁田村が合併して都住村となりました。

地理的条件を同じくする 2 カ村は、当時の合併促進法によって昭和 29 年 2 月に小布施村が町制を施行し、同年 11 月 1 日に都住村と合併して現在の小布施町となりました。現在は、果樹栽培が盛んな農村として、美しい自然環境に恵まれ、人間味豊かな地域社会を形成しています。特徴ある風土を活かし、先覚の残した文化遺産を継承、発展させ「栗と北斎と花のまち」として全国から注目され、年間 100 万人が訪れる町となりました。

位置・自然

小布施町は、長野県の北東部、善光寺平の東縁に位置し、役場の所在地は北緯 36 度 41 分、東経 138 度 19 分にあります。東は雁田山を挟んで高山村に、西部は千曲川を経て長野市に、南部は松川を経て須坂市に、北部は篠井川を挟んで中野市と接しています。

町域は東西 5.7km、南北 4.8km、総面積 19.12km² で、長野県で一番小さな市町村です。東部にそびえる雁田山（786.7m）を除き標高はおよそ 300m から 400m と北西に緩く傾斜した地形となっています。

気候は内陸性気候で寒暖の差が激しく、最高気温は 35℃、最低気温は -5℃まで下がります。年間降水量は 1,000 mm 以下と全国的に見ても少なく、寡雨気候となっています。

特有の気候条件と、扇状地で酸性の礫質^{れきしつ}土壌は、りんごやぶどうなど味の良い果物と、色合いや風味に秀でた特産の栗を産出しています。600 年の歴史を持つ大粒で良質な「小布施栗」を使った地場産業の栗菓子は、信州の代表銘菓として伝統を誇り、全国に名を馳せています。



社会・経済的条件

小布施町を南北に縦貫する広域幹線道路として、上信越自動車道、北信濃くだもの街道、国道 18 号および町の中心部に国道 403 号があります。

上信越自動車道は千曲川の右岸を南北に縦貫し、小布施パーキングエリアに ETC 専用のスマートインターチェンジが設置されています。国道 18 号は千曲川の左岸を一部通過しており、町内へのアクセスとして主要地方道豊野南志賀公園線が接続しています。国道 403 号は中心市街地を通り、中野市～須坂市間をつなぐ南北軸となっています。また東部には北信濃くだもの街道が南北に走り、高速道路に並行して県道村山小布施停車場線があります。

鉄道は、長野市と山ノ内町を結ぶ長野電鉄があり、小布施駅、都住駅が開設されています。

